

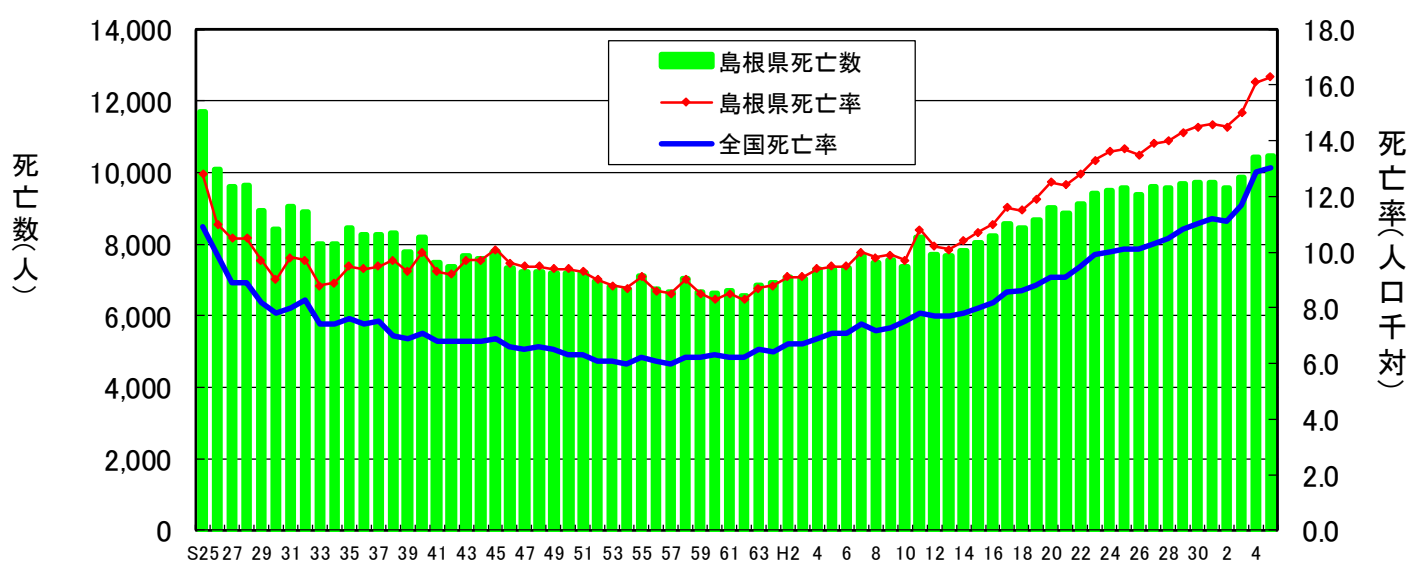
3 死亡

(1) 死亡数・死亡率

令和5年の死亡数は10,461人で、前年の10,434人より27人増加し、死亡率（人口千対）は16.3で、前年の16.1から0.2増加した。

死亡率の年次推移をみると、戦後急速に低下したが昭和30年代半ばから低下傾向が緩やかになり、昭和63年からは人口の高齢化に伴って再び上昇し始め、その後も上昇傾向を続けている（図4）。

図4 死亡数・死亡率の年次推移



年齢階級別に死亡率（人口10万対）をみると、0～9歳、30～39歳、55～59歳、70歳～74歳、80歳以上の各階級が前年より増加し、10～29歳、40～54歳、60～69歳、75～79歳の各階級が前年より減少した。80歳代の増加が最も大きい。

死亡率性比（男性の死亡率／女性の死亡率×100）を年齢階級別にみると、0～9歳及び25歳以上の各階級において100以上となっており、男性の死亡率が高いことを示している（表4）。

表4 年齢（5歳階級）別死亡数・死亡率（人口10万対）・死亡率性比

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡率性比
	令和5年	令和4年	対前年増減	令和5年	令和4年	対前年増減	
総数	10,461	10,434	27	1,634.5	1,610.2	24.3	101.8
0～4	13	5	8	59.1	21.7	37.4	116.7
5～9	6	1	5	23.1	3.7	19.4	464.4
10～14	2	4	△ 2	7.1	13.8	△ 6.7	0.0
15～19	4	12	△ 8	13.8	40.0	△ 26.2	93.3
20～24	6	10	△ 4	25.0	41.7	△ 16.7	84.6
25～29	10	14	△ 4	41.7	56.0	△ 14.3	338.5
30～34	13	12	1	48.1	42.9	5.2	108.3
35～39	16	14	2	50.0	42.4	7.6	220.0
40～44	21	31	△ 10	56.8	81.6	△ 24.8	104.2
45～49	48	69	△ 21	111.6	156.8	△ 45.2	200.9
50～54	86	97	△ 11	204.8	236.6	△ 31.8	232.9
55～59	145	107	38	391.9	289.2	102.7	237.2
60～64	228	240	△ 12	556.1	571.4	△ 15.3	322.5
65～69	382	409	△ 27	848.9	889.1	△ 40.2	306.4
70～74	838	828	10	1,551.9	1,427.6	124.3	249.0
75～79	970	948	22	2,204.5	2,370.0	△ 165.5	261.6
80～	7,673	7,633	40	9,134.5	8,980.0	154.5	139.6

注1) 死亡率性比=男性の死亡率/女性の死亡率×100

(2) 死因

①死因順位

令和5年の死亡数を死因順位別に見ると、第1位は悪性新生物で2,454人（人口10万対死亡率383.4）、第2位は心疾患で1,405人（219.5）、第3位は老衰で1,314人（205.3）となっている（表5）。なお、全国の死因は、第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が老衰となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物による死亡率は上昇を続け、昭和59年以降、死亡原因の第1位となった。心疾患の死亡率は、平成12年に死亡原因第2位となって以降上昇傾向にある。老衰の死亡率は、ほぼ横ばいに推移し、平成19年以降は上昇し続けていたが、令和5年は下降した。脳血管疾患の死亡率は、平成12年以降概ね横ばいで推移している（図5）。

また、死因別の死亡率を都道府県別に比較した場合、本県は、血管性及び詳細不明の認知症（全国第3位）、誤嚥性肺炎（全国第4位）、悪性新生物（全国第6位）の死亡率が高い水準を示している。

図5 主要死因の死亡率の年次推移

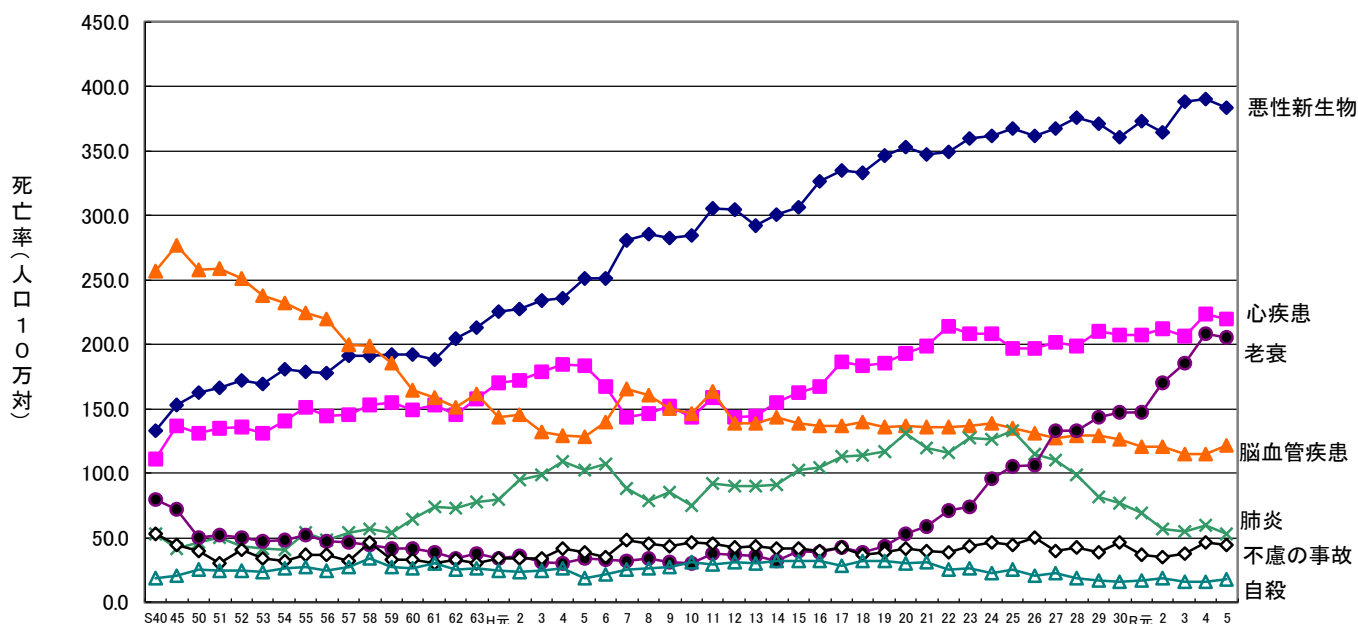


表5 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位；性別

死 因	令和5年									令和4年		
	総数			男性			女性			総数		
	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率	順位	死亡数	死亡率
悪性新生物<腫瘍>	1	2,454	383.4	1	1,406	453.5	1	1,048	317.6	1	2,526	389.8
心疾患(高血圧性を除く)	2	1,405	219.5	2	636	205.2	3	769	233.0	2	1,446	223.1
老 衰	3	1,314	205.3	4	348	112.3	2	966	292.7	3	1,349	208.2
脳血管疾患	4	780	121.9	3	359	115.8	4	421	127.6	4	745	115.0
誤嚥性肺炎	5	444	69.4	5	264	85.2	5	180	54.5	5	399	61.6
肺炎	6	336	52.5	6	209	67.4	9	127	38.5	6	384	59.3
不慮の事故	7	285	44.5	7	143	46.1	8	142	43.0	7	298	46.0
アルツハイマー病	8	246	38.4	13	78	25.2	6	168	50.9	8	266	41.0
血管性及び詳細不明の認知症	9	237	37.0	11	85	27.4	7	152	46.1	9	243	37.5
腎 不 全	10	199	31.1	9	104	33.5	10	95	28.8	10	216	33.3

注1) 令和4年は確定数

2) 男性の8位は「間質性肺疾患」で死亡数110 死亡率35.5。10位は「慢性閉塞性肺疾患」で死亡数95 死亡率30.6である。

②年齢別死因

令和5年の死因を性・年齢（5歳階級）別構成割合から見ると、死因順位第1位の悪性新生物の占める割合は、男女ともに5～9歳の割合が最も高いものの、男性は全体的には年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、65～69歳がピークとなっており、女性は概ね30代後半から増加し、40～44歳、50代、60代では5割以上を占めている。また、自殺の占める割合は、男性が25～29歳、30～34歳、女性においては15～19歳が高くなっている。（図6）。

図6-1 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（男性）

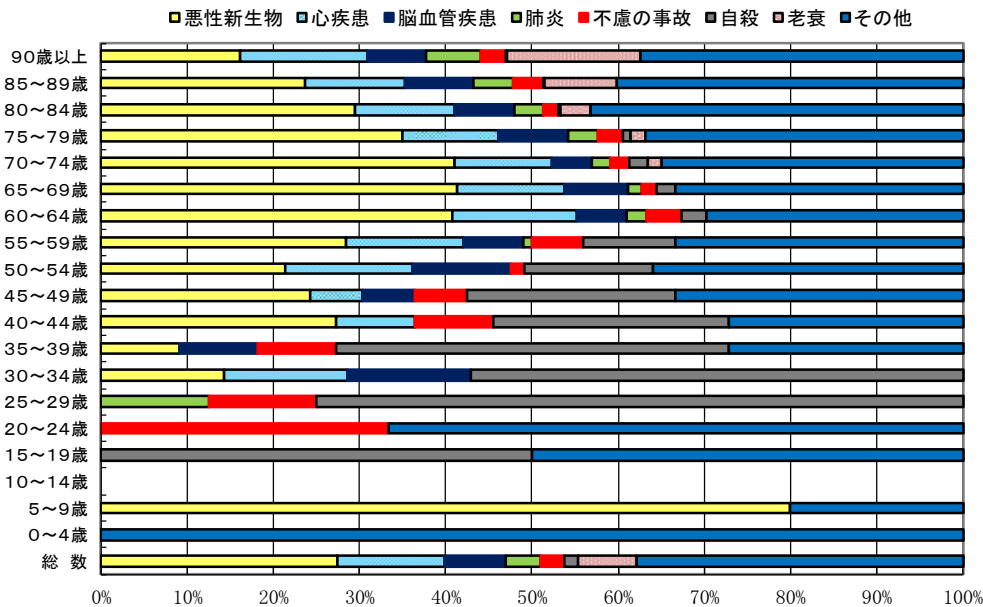
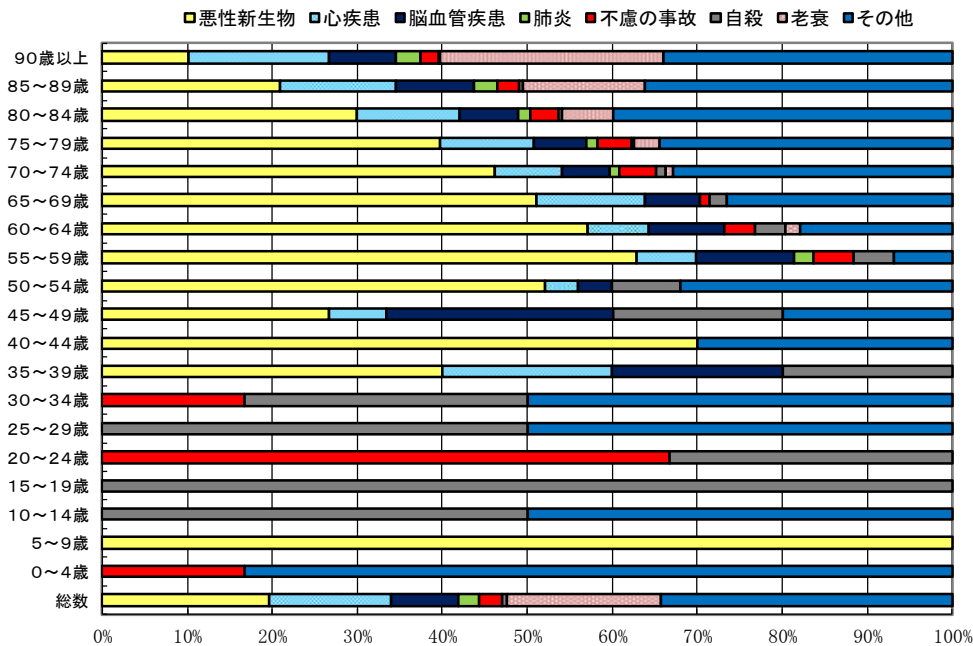


図6-2 性・年齢（5歳階級）別に見た主な死因の構成割合（女性）



③部位別に見た悪性新生物

悪性新生物について死亡数、死亡率（人口10万対）を主な部位別に見ると、男性では肝、大腸が上昇し、令和5年の死亡数は順に118人、188人で、死亡率は38.1、60.6となっている。女性では肺、肝、膵、乳房、大腸が上昇し、令和5年の死亡数は順に136人、58人、148人、71人、179人で、死亡率は順に41.2、17.6、44.8、21.5、54.2となっている（表6、図7）。

表6 悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率（人口10万対）の年次推移

死亡数																						
性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2	3	4	5
男性	胃	250	314	293	273	263	267	230	227	242	230	218	237	216	208	207	197	176	164	191	189	155
	肺	19	61	82	169	250	299	363	301	352	305	347	336	363	319	305	328	361	308	359	358	330
	肝	54	55	65	121	206	208	191	173	155	159	143	159	137	141	122	115	129	133	113	102	118
	膵	8	23	26	54	84	92	89	113	100	101	114	119	119	137	118	107	112	104	128	122	117
	大腸	23	42	48	79	151	163	164	168	177	192	157	175	171	178	158	148	174	142	168	183	188
女性	胃	165	179	202	149	159	137	152	137	137	146	149	134	116	109	130	115	122	111	118	142	94
	肺	8	18	32	52	109	98	107	123	101	137	112	126	118	128	139	129	124	134	118	127	136
	肝	37	33	35	55	89	99	90	88	85	84	103	80	76	90	88	64	57	74	57	55	58
	膵	6	17	24	40	68	89	92	99	128	96	101	92	115	133	121	117	132	127	155	134	148
	乳房	18	16	25	28	38	43	54	65	56	62	63	67	72	78	55	73	87	59	71	57	71
	子宮	93	71	57	40	38	25	21	36	30	30	34	35	29	26	33	38	35	27	31	50	36
大腸	30	44	48	85	123	125	150	140	154	153	165	150	160	159	177	173	169	164	173	168	179	

死亡率																						
性別	部位	S30	40	50	60	H8	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2	3	4	5
男性	胃	54.7	79.8	80.0	71.7	71.7	73.7	65.2	66.5	71.4	68.2	65.3	71.4	65.3	63.2	63.5	60.8	54.8	51.3	60.3	60.2	50.0
	肺	4.2	15.5	22.4	44.4	68.1	82.6	102.8	88.2	103.8	90.5	103.9	101.2	109.7	97.0	93.6	101.2	112.5	96.3	113.2	114.0	106.5
	肝	11.8	14.0	17.7	31.8	56.1	57.4	54.1	50.7	45.7	47.2	42.8	47.9	41.4	42.9	37.4	35.5	40.2	41.6	35.6	32.5	38.1
	膵	1.8	5.8	7.1	14.2	22.9	25.4	25.2	33.1	29.5	30.0	34.1	35.8	36.0	41.6	36.2	33.0	34.9	32.5	40.4	38.9	37.7
	大腸	5.0	10.7	13.1	20.7	41.1	45.0	46.5	49.2	52.2	57.0	47.0	52.7	51.7	54.1	48.5	45.7	54.2	44.4	53.0	58.3	60.6
女性	胃	34.9	41.8	50.4	35.8	39.8	34.7	39.3	36.9	37.1	39.9	41.0	37.2	32.4	30.7	37.0	33.0	35.5	32.4	34.9	42.5	28.5
	肺	1.7	4.2	8.0	12.5	27.3	24.8	27.6	33.1	27.4	37.4	30.9	35.0	32.9	36.1	39.6	37.1	36.0	39.2	34.9	38.0	41.2
	肝	7.8	7.7	8.7	13.2	22.3	25.1	23.3	23.7	23.0	23.0	28.4	22.2	21.2	25.4	25.1	18.4	16.6	21.6	16.9	16.5	17.6
	膵	1.3	4.0	6.0	9.6	17.0	22.5	23.8	26.7	34.7	26.2	27.8	25.6	32.1	37.5	34.5	33.6	38.4	37.1	45.9	40.1	44.8
	乳房	3.8	3.7	6.2	6.7	9.5	10.9	14.0	17.5	15.2	16.9	17.4	18.6	20.1	22.0	15.7	21.0	25.3	17.2	21.0	17.1	21.5
	子宮	19.7	16.6	14.2	9.6	9.5	6.3	5.4	9.7	8.1	8.2	9.4	9.7	8.1	7.3	9.4	10.9	10.2	7.9	9.2	15.0	10.9
大腸	6.4	10.3	12.0	20.4	30.8	31.7	38.8	37.7	41.7	41.8	45.5	41.7	44.7	44.8	50.4	49.7	49.1	47.9	51.2	50.3	54.2	

注：大腸の悪性新生物は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を示す。
ただし、昭和40年は十二指腸と小腸を含み、昭和50年は肛門を含む。

図 7-1 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（男性）

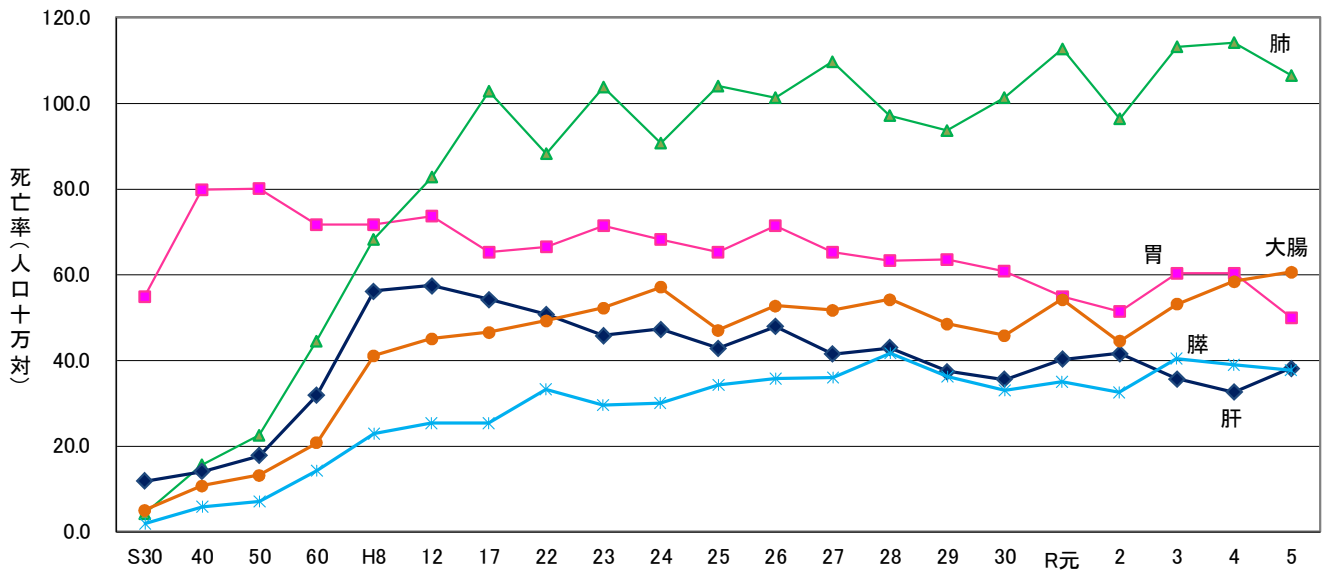


図 7-2 悪性新生物の主な部位別死亡率（人口 10 万対）の年次推移（女性）

